



地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	● 緩和ケア病棟 …………… 1	● 放射線部 …………… 5
く	● サポートケアチーム …………… 2	● 専門看護師・認定看護師 …………… 6
じ	● 眼科 …………… 3	● 認知症ケアチーム …………… 7
	● 薬剤部 …………… 4	● 外来診療表 …………… 8

緩和ケア病棟におけるボランティア活動のご紹介

苦しい闘病の中にあっても、患者さんがほんのひととき心安らぐ時間を持てること。そして、ご家族が患者さんと共に穏やかな時間を過ごせること。兵庫県立加古川医療センター緩和ケア病棟では、そうした大切な時間を支えるため、ボランティア活動を積極的に行っています。季節の行事や音楽、園芸などを通して、入院生活にやさしい彩りを添えるお手伝いをしています。

新型コロナウイルス流行期間中は活動を一時中止しておりましたが、昨年より順次再開し、ようやくコロナ以前の活動のかたちを取り戻すことができました。

活動内容

● 音楽ボランティアによるコンサート

さまざまなジャンルで活躍されている演奏者の方々によるボランティア演奏で、緩和ケア病棟コンサートを定期的に開催しています。音楽は、言葉を超えて患者さんの心に届き、表情がやわらぐ瞬間を生み出してくれます。

● 季節を感じる飾りつけ

緩和ケア病棟（3階西病棟）に季節の飾りを展示したり、入院患者さんへ行事に合わせた手作りの飾りをお渡しする活動を行っています。病室に差し込む季節の気配が、日々の暮らしを少しだけ明るくしてくれます。



患者さんと共に時間を過ごすボランティア

- 話し相手（傾聴）
- 音楽療法の付き添い
- 車椅子散歩



患者さんが過ごす環境を整えるボランティア

- 楽器演奏（ピアノ・合唱・ハンドベルなど）や人形劇
- 季節の行事の企画・お手伝い（節分、ひな祭り、クリスマスなど）
- 今後、アニマルセラピーも企画しています



苦しい闘病の中にある患者さんにとって、心がふっと緩む時間は、何ものにも代えがたいものです。そのひとときを共に過ごし、人生の大切な一場面を分かち合えることは、ボランティアならではの役割だと感じています。特に、コンサートでの患者さんとのふれあいを通じて、歌や音楽が持つ力の大きさを、私たちは何度も実感してきました。当院のボランティア活動は、それぞれの経験や得意分野を活かし、自らの意思で企画し、活動されています。医師や看護師、病院スタッフと協力しながら、患者さんご家族が「その人らしい日常」を穏やかに過ごせるよう支えています。ボランティアは、医療従事者でも、家族でもありません。だからこそ語れること、共感できること、そして静かに受け止められる想いがあります。

ボランティアが目指すもの

- 入院中の患者さんが院内で快適に過ごせるよう支援します
- 安心して穏やかに過ごせる環境づくりを担います
- 入院生活に季節の風を届けます
- 院内サービスの向上と充実を支えていきます

ボランティアの皆さまの温かい支えは、患者さんご家族の笑顔につながっています。心に寄り添うその活動に、心より感謝しております。

学生が学ぶ多職種連携の現場

— サポートケアチーム・カンファレンスへの参加を通して —

当院では、病院実習中の管理栄養士・薬剤師を目指す学生が、緩和ケア内科・サポートケアチーム（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士）のカンファレンスに参加しています。今回は、多職種との交流を通じて、チーム医療への理解を深める取り組みを紹介します。

高齢多死社会を迎え、医療・介護の現場では専門職同士が連携・協働する体制の重要性が一層高まっており、職種ごとの専門教育に加え、将来医療を担う学生が多職種連携・協働の実際を学ぶ機会の充実が求められています。

緩和ケアは、全人的苦痛（身体的・精神的・心理社会的・スピリチュアル）に対応する医療・ケアであり、多職種がそれぞれの専門性を活かして連携することで、患者と家族に寄り添ったケアを提供します。本取り組みは、学生が多職種それぞれの業務や専門性を理解し、実践的な連携のあり方を知る・考えることを目的としました。

参加にあたっては、緩和ケアの基本的な考え方やチームの役割について事前説明を行い、学生自身が「多職種に聞いてみたいこと」を考えた上で、質疑応答や意見交換を行いました。

質問内容の一部として

- 患者本人・家族と医療従事者との考えにずれが生じた場合の対応
- 患者さんとご家族の意見が異なる際の関わり方
- 一般病棟と緩和ケア病棟での関わりの違い
- 薬剤師が多職種から求められる役割

などが挙げられました。

これらに対しチームメンバーからは、対話を重ねながら思いを共有し、時間をかけてすり合わせていること、病棟の特性に応じた関わり工夫等を伝えました。また薬剤師は、服薬指導の中で薬の効果や副作用を確認しながら、患者さんがふと漏らす思いや違和感を受け止め、状態に合わせた薬剤の提案を行い、苦痛緩和に繋げていること、管理栄養士は食事を通して「生きる力」や「満足感」を支え、本人・家族の希望に寄り添っていること等を紹介しました。

こうしたやり取りを通して学生からは、

- コミュニケーションの大切さが分かった
- 講義で聞いていた時にはイメージできなかった多職種連携が、具体的にイメージできるようになった
- 将来、薬剤師として求められる役割が理解できた

といった感想がありました。

チームメンバーからも、「学生の質問によって、自分たち自身も改めて緩和ケアについて考える良い機会になった」との声があり、学ぶ側・伝える側の双方にとって価値のある時間になっています。



眼科

眼科部長 薄木佳子

当院眼科は、外来診療と院内患者さんの診療の双方を担い、地域医療を支える診療科として日常診療を行っています。診療体制として常勤医師1名、非常勤医師2名で構成され、白内障、涙道手術を中心に手術を行っており、また東京より硝子体を専門とする医師の協力を得ることで硝子体手術や白内障難症例にも対応しています。

近年、眼科では外来での検査が多岐にわたっており、視力・視野・眼底写真（図1）だけでなく高度機器を用いて眼球形態の詳細な分析が可能になっています。それらの検査を担う視能訓練士は常勤2名、非常勤3～4名が在籍し、視機能検査や術前術後管理、眼鏡処方や生活指導・訓練など幅広い業務を担当しています。

当科では、患者さん本位の診療を基本方針とし、丁寧な説明と安心して治療を受けていただける環境づくりを心掛けています。ただ医師数が少ないため、受診していただく患者さんには待ち時間が長くなり、いつもご迷惑をおかけしております。病状の重い患者さんの診療を優先するために、病状が安定されましたらすみやかにかかりつけ医の先生方に病状のご報告や逆紹介をさせていただきますので、なにとぞご協力のほどお願いいたします。

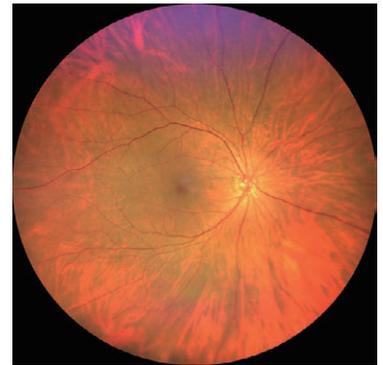


図1
clarus700で撮影した眼底写真
散瞳なしでも眼底周辺まで確認
できます



薬剤部

薬剤部長 汐谷 恵

薬剤部は、医薬品の適正使用および安全な使用に主体的に関与し、有効かつ安全な薬物療法が行えるように支援しています。従来の調剤業務にとどまらず、入院患者への服薬指導・薬歴管理（病棟業務）、薬物血中濃度測定（TDM）を活用した処方設計、無菌調製、さらにはチーム医療への参画など、業務領域を拡大しています。特にチーム医療においては、薬学的視点から専門性を発揮し、高度な薬物療法の提供を目指しています。

チーム医療への参画

薬剤部は、院内の多くのチーム医療に参画しています。

● 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

血液培養結果に基づいた処方提案、内服抗菌薬の適正化や、TDMを活用した処方設計・支援を行っています。実践的な経験を積み、臨床現場で活躍できる薬剤師の育成に繋がっています。

● 緩和ケアチーム（PCT）

地域を含めた緩和医療の充実を推進しています。各種講習会への積極的な参加を通じて専門性の向上に努め、チームの中核的な役割を担っています。

● その他のチーム活動

近年は、術後疼痛管理チームおよび認知症対策チームへの参画も開始しています。



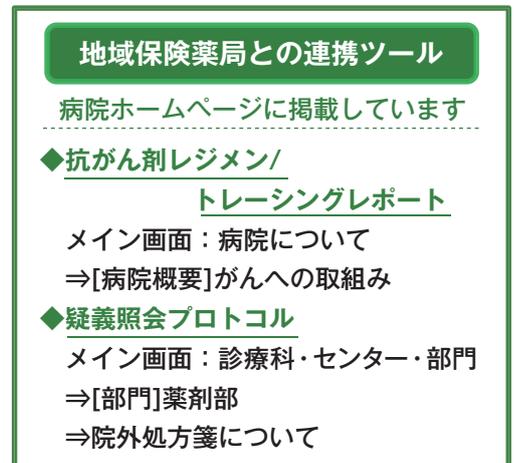
地域保険薬局との連携

● がん薬物療法における連携強化

病院ホームページ上で抗がん剤レジメンを公開し、情報共有を図っています。また、地域の保険薬局薬剤師を対象とした薬薬連携研修会を開催しています。今後はトレーシングレポートの活用をさらに進め、副作用対策のさらなる向上に取り組んでいきます。

● 疑義照会プロトコルの運用

外来診療および保険薬局での調剤業務の円滑化を目的として、近隣病院共通の「院外処方箋における疑義照会プロトコル」を作成し、運用しています。



□ 専門・認定薬剤師

- ・ 抗菌化学療法認定薬剤師
- ・ 救急認定薬剤師
- ・ 外来がん治療認定薬剤師
- ・ N S T 専門療法士
- ・ 日本DMA T 隊員
- ・ 周術期管理チーム認定薬剤師
- ・ 術後疼痛管理チーム認定
- ・ 認定実務実習指導薬剤師
- ・ 病院薬学認定薬剤師



放射線部のご紹介

放射線技師長 土井久典

放射線部について

放射線部は、画像診断および放射線治療を通じて診療を支える部門です。「正確で信頼できる画像情報を、迅速かつ安全に提供すること」を大切に、診断や治療に役立つ情報を医師へ届けています。患者さんが安心して検査を受けていただけるよう、分かりやすい説明と、負担の少ない検査環境づくりにも努めています。

検査・治療内容

一般撮影、CT、MRI、マンモグラフィ、血管造影検査、X線透視検査、核医学検査、放射線治療など、幅広い検査・治療に対応しています。最新の256列CT装置(写真1)や3テスラMRI(写真2)などの高性能機器を導入し、短時間で高画質な画像取得を実現しています。また、被ばく低減への取り組みや画像解析AIの活用検討など、安全性と質の向上にも取り組んでいます。

地域医療連携として

当部門では、各種画像検査を地域医療機関からのご依頼として広く受け付けています。検査予約につきましても比較的余裕があり、できるだけ円滑な日程調整を心がけております。検査結果は速やかに紹介元医療機関へ提供し、診療にお役立ていただけます。

スタッフ体制

当部門には、診断・治療に携わる放射線技師が24名在籍しています。専門分野ごとの資格を有するスタッフが連携し、正確な検査と丁寧な対応を心がけています。

(主な資格)

第一種放射線取扱主任者、検診マンモグラフィ認定技師、医学物理士、放射線治療専門放射線技師、CT・MRI認定技師、医用画像情報専門技師、AI認定技師 ほか



放射線部は、これからも地域の皆さまに信頼される部門を目指し、日々研鑽を重ねてまいります。



写真1 CT (256列)



写真2 MRI (3T)

専門看護師・認定看護師

当センターでは、以下のスペシャリストが在籍し、質の高い医療の提供に努めています（2026年1月現在）

専門看護師（CNS）：2分野2名（がん看護、慢性疾患看護）

認定看護師（CN）：8分野11名（集中ケア、緩和ケア、がん化学療法看護、摂食・嚥下障害看護、皮膚・排泄ケア、感染管理、手術看護、認知症看護）

CNSとCNがタッグを組んで様々な研修会を開催し、推進力となってチーム医療活動に取り組んでいます。その中のほんの一部ですが、ご紹介します！



【研修会】

多職種参加による倫理研修

昨年度までは看護師対象に倫理研修を行っていましたが、今年度は院内倫理委員会からの依頼を受けて、医師を含む多職種を対象に研修を開催しました。（写真）グループワークでは、臨床倫理4分割法を用いて事例を整理し、職種を超えて、お互いの役割や視点の違いを尊重しながら、チームとして患者の最善を考えていくことができました。今後は、各部署での倫理カンファレンスを推進していけるようCNS・CNとして積極的な働きかけを行い、患者・家族の抱える倫理課題にチームでアプローチできる風土づくりに取り組んでいきます。



多職種での倫理研修の様子

【チーム活動】

RST（呼吸サポートチーム）

人工呼吸器装着の患者さんに対し、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士が連携して介入するチームです。集中ケア認定看護師がチームの推進者として参加し、病棟回診やコンサルテーションを通じて、患者さんが「安楽に呼吸できる状態」を目指した評価と調整を行っています。多職種の視点をつなぎながら、人工呼吸器からの早期離脱、安全管理、合併症予防に取組み、現場に根ざした呼吸ケアの向上を支えています。



CNS・CN集合写真



専門看護師・認定看護師は、専門知識を提供するだけでなく、「つなぐ役割」「対話を生み出す役割」として、多職種が力を発揮できる環境づくりに貢献しています。

認知症ケアチーム

当院では、認知症あるいは認知機能低下がある患者さんが安心して治療が受けられ、入院中もその人らしい生活が続けられるよう、多職種が連携してケアを行っています。また、早期回復と円滑な退院支援をめざし、日々活動を続けています。

【認知症ケアチーム】

医師（脳神経内科、精神腫瘍科医師）・看護師・薬剤師・作業療法士・管理栄養士・社会福祉士の専門職で構成され、患者さんの状態を多面的に評価し、最適なケアの提供を目指しています。認知症症状の進行の予防や行動・心理症状悪化の予防に努め、住み慣れた場所に帰ることができるよう支援しています。

【主な活動内容】

1. 多職種カンファレンス

病状・栄養面・認知機能・生活状況・社会的背景などの情報を共有し、治療や環境の変化によるストレスの軽減やせん妄予防、安全に配慮した入院生活の工夫など、患者さん一人ひとりに合わせた支援を検討しています。

2. 認知症ケアラウンド

毎週木曜日に認知症ケアチームが病棟を訪問し、患者さんの症状、生活状況、環境、服薬状況などを確認します。症状緩和に必要なケアや環境調整、コミュニケーション方法の工夫など検討し、病棟スタッフと共有しています。また毎週金曜日には精神腫瘍科医師による助言を受けながら、不眠・不穏・せん妄などの症状に応じた薬剤調整も行っています。

3. 研修・支援活動

認知症の方とご家族が安心して治療が受けられる病院づくりを目指し、職員向けの研修を行っています。環境調整やコミュニケーション技法、せん妄予防、身体拘束最小化の考え方などの研修を実施しています。

各職種が協働しながら患者さん一人ひとりに寄り添ったケアが行えるよう努めています。今後も認知症ケアチーム活動を続け、より安全で安心できる医療・ケアの質の向上を目指していきます。





県立加古川医療センター外来診療表



2026年3月2日(月)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1 診	埴本(さかもと)	安富	田村	【伊(ゆん)】(再診のみ)	埴本(さかもと)
	2 診	廣畑	森口	廣畑	廣畑	安富(午前)森口(午後)
	3 診	河原			白川	布目(午後)
循環器内科	1 診 再診のみ		担当医		担当医(～14時) 【ペースメーカー】	担当医
脳神経内科	1 診	下村	奥田	一角	高原	奥田
	2 診		土田(午前)	下村(午後)		一角
糖尿病・内分泌内科	1 診	合田	藤田	田守	石田	櫻谷
	2 診		大西	稲山		前田
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中	田中(午後)	田中(午前)		
生活習慣病			【戒谷(えびすたに)】(午前) 【坂田】(午後) 糖尿病・肥満 装具外来 (第2・4午前)	【合田】 糖尿病・肥満	【西山】 糖尿病・肥満	担当医(午前)
リウマチ科	1 診	中川	塩澤	塩澤	天野	中川
	2 診	田中	上藤	青崎	仲	仲
	3 診	仲	吉原	吉原	吉原	担当医
	4 診	村田	西田	村田	村田	担当医
	5 診	並木		原井川		北野
腎臓内科	1 診 午後	藤川	加藤	担当医	藤川(2,4週午前) 加藤(1,3,5週)北浦(2,4週)	山本(午前)
外科・消化器外科	1 診	小林	川嶋	小林	交代制	担当医
	2 診	中川	松下	門馬(もんま)		中山
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1 診	担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	2 診		松島	荒井		松島
乳腺外科	1 診 再診のみ		石川		石川	
整形外科	初診 1 診	青木	上藤	高山	市村	中川
	初診 2 診	高原		北山	神村	
	骨粗鬆症 午後	【上藤】		【北山】		
形成外科	1 診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2 診	相原		相原	相原	相原
	3 診	佐竹		佐竹	佐竹	佐竹
	4 診	小堀		小堀	小堀	小堀
皮膚科	初診/予診	稲守	永松	南	竹内	稲守
	1 診	竹内(午前)	川田	川田	稲守	川田
	2 診	永松(午前)	南	永松	南	竹内
眼科	1 診	薄木(午後)	薄木			薄木
	2 診	徳川	徳川	徳川		徳川(第3)
	3 診	秋田(第2・4)				
泌尿器科	1 診	担当医	金	田中	担当医	田中
	2 診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医		担当医		担当医
	(治療)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。